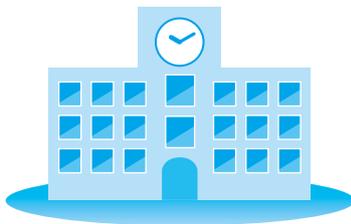




学校の人権教育

7月16日(火)の大分合同新聞「東西南北」に次のような記事がありました。【避難勧告・避難指示に従っても、大した被害もないケースが続いたら・・・気になるのはオカミ少年効果。慣れてしまうのも怖い。そもそも人には、多少の危険は正常の範囲と考えてしまう『正常性バイアス』、何となく周囲の行動に合わせてしまう『同調性バイアス』という心理が働く。】バイアスとは、先入観、偏見という意味を持つ言葉です。この2つのバイアスととっさのことので頭が真っ白になって体が動かない「凍り付き症候群」を合わせて、「考えることをあきらめる習慣」と、災害心理学者が指摘しています。6月7日(金)の大雨で「警戒レベル4(全員避難)」が初適用された地域において実際に避難した人は1%に満たない数でした。これは、「考えることをあきらめる習慣」が原因ではないかと考えられています。避難勧告が出されても避難しない原因と、いざというときに判断を誤らないための「心構え、頭構え、身体構え」を作っておくことという課題意識は、そのま

ま人権教育の課題意識と重なること福岡県人権研究所の谷口研二さんは言っています。小中学校で人権学習を実施していますが、その目的は、いざというときに取り乱したり、判断停止に陥ったりしないために、様々な場面を想定して「心構え」「頭構え」「身体構え」をつくっておくことです。そのために、学校では、人権学習だけでなく教育活動全体を通して、「気づく(どうしたの?)」「考える(思いを伝える、なるほど、なっとく)」「行動する(つぎ、どうする?つながりづくり)」を大切にしています。



学校では、「部落差別の問題」「女性の人権問題」「子どもの人権問題」「高齢者の人権問題」「障がい者の人権問題」「外国人の人権問題」「医療をめぐる人権問題」「拉致問題」「インターネットをめぐる人権問題」「いじめ問題」「DV問題」「性的指向、性自認等に関わる問題」「災害に関わる人権問題」「ヘイトスピーチに関わる人権問題」等を計画的に年間指導計画に位置づけて授業等で取り上げています。人権問題の中で、ハンセン病問題については、厚生労働省作成パンフレット「ハンセン病の向こう側」を中学生へ配布し、ハンセン病に対する偏見や差別を無くすために、ハンセン病について正しい知識を持たせる取り組みをしています。また、拉致問題については、内閣官房拉致問題対策本部作成DVDアニメ「めぐみ」を各学校へ配布しています。

文部科学省が平成20年にまとめた「人権教育の指導方法の在り方について(第三次とりまとめ)」では、学校教育における人権教育目標は「児童生徒が発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し『自分の大切さとともに他人の大切さを認めること』ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにする。」と示されています。

この目標を達成するためには、様々な人権問題に対して、児童生徒に人権に関する知的理解と人権感覚の育成を基盤として、「気づく」「考える」「行動する」ことができる児童生徒の育成が求められています。

(文責：学校教育課 財前)

市長室から
こんにちは

市長日記

100

『果物の王様はバナナ』

国東市長 三河明史



「はい、百円」「えっ、百円？」何と、バナナ5本の房が、百円なのです。安い！店の人の話は、こうです。「毎日暑く、バナナも傷みやすい。皮に黒い点々が出来ると房を切り分け、一房百円で売っている」というわけです。(この当時の話ですよ)

それにしても安い。皮の黒い点々は、あった方が体に良いと最近の新聞にも出ていましたし、果物でも肉でも腐る直前が一番美味しい、とも言われています。

私は、得した気分でもバナナを買って意気揚々と帰りました。私は、朝のウォーキングの帰り道にこのお店の前を通るので、時々バナナを買っているのですが、バナナの房を入れたビニール袋を下げていると何とも幸せな気分になります。

私にとって果物の王様は、何と言ってもバナナです。最近では、果物の王様は、ドリアドとかアボカドだとか、あるいはマンゴーだとか戯言を言う人がいますが、誰が何と言っても、何が何でも果物の王様はバナナなのです。

私達の子どもの頃、果物と言えば、柿や栗であり、スイカや蜜柑などもそう口に入るものではありませんでした。そういうときに、バナナはまばゆいばかりの「舶来もの」として、そして高価な果物の王様として、颯爽と登場したのです。

しかし昭和30年頃、国東のような田舎町では滅多に見ることもかかないませんでしたし、見たとしても高嶺の花でした。売り方も房売りでは無くばら売りで1本30円(現在の価値でおおよそ180円)もしたのです。何かの奇跡で食べたときのあの香りと上品な甘さは忘れることは出来ません。

今は、そのバナナを房で購入し、好きなきときに食べることが出来るのです。何という幸せでしょうか。良い世の中になったものです。ところで、こんな歌はご存じですか？

♪可愛い魚雷と一緒に積んだ青いバナナも黄色く熟れた 男世帯
は気儘なものよ 髭も生えます無精髭♪(出典：米山忠雄「轟沈」)



「道の駅くにさき」のインバウンド対策が表彰されました

7月23日に長崎県で開催された「九州・沖縄 道の駅連絡会総会」において、道の駅くにさきが表彰を受けました。

道の駅くにさきは、外国語で対応可能な観光案内所を設置しており、多言語表記のガイドマップや観光案内看板なども充実しています。こうしたインバウンド(訪日外国人旅行者)対策への取り組みが認められ、インバウンド受入を積極的に推進している模範的な道の駅として表彰されたものです。

ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、今後国東市にも多くの外国人観光客の来訪が期待されています。道の駅くにさきは、国東観光の拠点施設としてさらなるサービスの向上とインバウンド対策の拡充に努めていきます。

※道の駅くにさきの観光案内所は多言語翻訳機を備え、英語が話せるスタッフも常駐しています。外国語で広域の観光情報を提供できる案内所として、日本政府観光局(JNTO)より「外国人観光案内所(カテゴリー-2)」に認定されています。

【問合せ】観光課 ☎0978-72-5168

